

西風下

東風上

風の吹く方向

スキー場跡

国道101

写真1



## 地球上で最も新しい地層 「砂丘(ジオポイント4)」

地球が誕生してから46億年が過ぎたといいますが、これまでには様々な天変地異が起こったといわれています。それは大地震であったり火山の噴火であったり、はたまたま気候の大変化であったりと大変な時代を経て現在に至っているわけですが、その異変を境にして地層の様子や中身が大きく変わります。

写真1は以前スキー場として使用していた小山です。スキー場造成工事中に山がどんな地層からできているか興味があり見ていましたが、出てくるのは砂ばかりで小石1つ入っていませんでした。

このような砂山は能代市内の松原をはじめ砂浜が近くにある地域には一般に見ることができ、これを「砂丘」と呼んでいます。  
砂は風によって運ばれ、風上方向ではなだらかな斜面を、風下では急な斜面を持つ山を作ることが多いです。

## 砂丘のつくり

砂丘の中身はどうなっているか八峰町のみならず



写真2 蝦夷倉の砂丘(昭和48年頃)

能代海岸を経て男鹿半島の付け根にあたる若美まで36kmを調査しました。その結果、砂丘が出来る順序には法則があることに気づきました。その1つ目として砂丘は3回の飛砂によって出来たということ、2つ目は2回の飛砂休止期(砂あらしがなかった時代)があったということ、3つ目は砂丘中に挟まれている黒い土の層(黒色土)は飛砂休止期にできたということでした。

しかし、得た情報は地域ごとにまちまちで、すべての地域で3つの事柄を確認することはできませんでした。ところがポンポコ山(これも砂丘)では前述の法則がすべて確認できるのです(下図)。

## 砂丘の出来始めは?

砂丘が出来始めたころの年代は必ずしも明らかになっていませんが、目名瀧の蝦夷倉(写真2)にある砂丘の調査結果が、この問題に一石を投じました。砂丘中の黒色土から炉の跡が発見され、その中にあった木炭を採取し、その木が生きていた年代を測定してもらうため研究所に送ったところ弥生時代の木であることが明らかになりました。

つまり、一回目の飛砂は弥生時代より前ということと言えます。今後、砂丘の調査が進みさらに詳しい砂丘の出来方が明らかになってくることを期待しています。

八峰白神ジオパーク推進協議会

会長 工藤 英美

〒018-2612

秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116

旧岩館小学校内

☎0185-78-2427

※4月1日から推進室は右記住所へ移転しました。

